

科目名	心理学						
担当講師	山崎 剛信						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

心の科学である心理学の基礎を学ぶ。感覚・知覚、記憶、動機づけ、パーソナリティ、集団の性質などを医療現場で起こりうる問題とも関連付けながら学び、人間行動を深く理解できるようにします。

学修到達目標

心理学の基礎を学ぶことで、医療現場で展開される個人、集団の心の働き・行動について深い理解ができるようになり、そこで生じる様々な問題の解決を行えるようになることを目指します。

授 業 計 画

- 第1回 感覚
- 第2回 知覚
- 第3回 記憶
- 第4回 学習
- 第5回 感情・動機
- 第6回 パーソナリティ
- 第7回 知能
- 第8回 対人コミュニケーションの心理
- 第9回 社会・組織・集団 (1)
- 第10回 社会・組織・集団 (2)
- 第11回 ストレスと健康 (1)
- 第12回 ストレスと健康 (2)
- 第13回 患者の理解
- 第14回 医療職者の理解
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 (50%) レポート (50%)

教科書

なし

参考図書・文献

授業中適宜紹介する

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

授業は日常で起こることを題材にする。普段から人間に感心を持ち、よく観察すること、書き物や映画、音楽などから人間について知ることも大切である。特に大量の読書を期待する。

科目名	教育学						
担当講師	高田 麻美						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義、演習						

授業概要

理学療法士・作業療法士は、対象者に対する専門的介入に加え、患者教育や実習生指導などの教育的役割を担います。本科目では教育学の基礎的知見に基づき、発達理解や多様性への配慮を踏まえた支援の視点と、医療現場における倫理的判断力を養います。

学修到達目標

- ・教育学の知見に基づき、合意形成の意義と多様性の理解を深めつつ、支援相手に適した教育的支援のあり方を考える。
- ・医療倫理の諸課題を多角的に考察し、対話的学びを通して支援の本質を問い続ける姿勢を身につける。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、教育学の基礎(1)
- 第2回 教育学の基礎(2)
- 第3回 教育学の基礎(3)
- 第4回 教育学の基礎(4)
- 第5回 教育者に求められる資質(1)
- 第6回 教育者に求められる資質(2)
- 第7回 教育者に求められる資質(3)
- 第8回 教育者に求められる資質(4)
- 第9回 教育者に求められる資質(5)
- 第10回 倫理的課題を考える(1)
- 第11回 倫理的課題を考える(2)
- 第12回 個人調査(1)
- 第13回 個人調査(2)
- 第14回 ミニ発表会と振り返り
- 第15回 総括

評価方法

毎回の小レポート(30%)、グループ発表の内容と参加貢献度(30%)、期末レポート(40%)

教科書

なし

参考図書・文献

藤田由美子・谷田川ルミ編著『ダイバーシティ時代の教育の原理 第二版』学文社、2022年

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

- ・書き込み式の授業資料を配布しますので、ノート等は不要です。授業資料のファイリングをお願いします。
- ・個人調査のなかでパソコンやタブレットを使用することがあります。
- ・担当教員は非常勤講師のため、授業に関する質問等は、授業前またはメールにてご相談ください。

【基礎分野】

【作業療法学科】

科目名	コミュニケーション論						
担当講師	山川 志野						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。☑						
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

コミュニケーションとは何かを学びます。対象者、その家族や関連職種との良好なコミュニケーションをとることはリハビリテーションの効果を上げる鍵となります。そのためコミュニケーションの特性をよく知ることが重要となります。また人間関係がどのように成立し維持されるのかといったメカニズムや手法について学びます。

学修到達目標

1. コミュニケーションの意義、基礎知識について説明することができる。
2. 自己理解の上で、相手を尊重し互いに理解する必要性を説明できる。
3. 自己成長のための振り返りを行うことができ、自身の考えを述べることができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | コミュニケーションとは |
| 第3回 | コミュニケーションに必要とされる力 |
| 第4回 | コミュニケーションに必要とされる力 |
| 第5回 | バーバル・コミュニケーション |
| 第6回 | ノンバーバル・コミュニケーション |
| 第7回 | コミュニケーションの手法 |
| 第8回 | コミュニケーションの手法 |
| 第9回 | 対象別の伝達について |
| 第10回 | 対象別の伝達について |
| 第11回 | 医療面接 |
| 第12回 | 医療面接 |
| 第13回 | 実技 |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | 問題演習 |

評価方法

講義課題（40％） 筆記試験（60％）

教科書

コミュニケーション論・多職種連携論（医歯薬出版）

参考図書・文献

プリント資料を配布します。

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

取り込んだ知識を見学実習の体験や日頃の生活場面に置き換えて理解できるよう努めてください。

科目名	物理学						
担当講師	佐藤 英一						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

物理学は難しいと思われがちであるが、医療業務において物理学に関連する知識は必要である。例えばX線の発見は人体の透視という画期的な診断法をもたらした。このように医療技術の原理は物理学に基づいていることが多い。よって本科目では、医療に役立つ医学物理の基本概念を習得する。

学修到達目標

1. 距離, 速度, 加速度の関係を式で表し, 説明できる.
2. 簡単な流体力学を式を用いて説明できる.
3. 熱力学の諸法則を式を用いて表し, 解説できる.
4. 音の波長, 速度, 振動数を式で表し, 説明できる.
5. 簡単な直流回路と交流回路を図示し, 電圧, 電流, 抵抗, インピーダンスなどを計算できる.
6. $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ ・X線, 放射線量の単位などを説明できる.

授 業 計 画

- | | |
|-----|-----------|
| 第1回 | 単位系と物体の運動 |
| 第2回 | 力と加速度 |
| 第3回 | 仕事とエネルギー |
| 第4回 | 流体 |
| 第5回 | 熱 |
| 第6回 | 波動 |
| 第7回 | 電気と磁気 |
| 第8回 | 放射線 |

評価方法

筆記試験 (100%)

教科書

系統看護学講座 物理学 (医学書院)

参考図書・文献

医歯系の物理学 (東京教学社)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義前にシラバスにある講義内容を調べ, 次のURLから資料をダウンロードし, 可能な限り事前学修を行う.

<http://raysinc.jp/e-learning.pdf>

科目名	化学						
担当講師	吉田 潤						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

化学は、物質の構造、性質、変化等を直接取り扱う学問である。
本講義では化学の基本的な概念、原理、法則等を力明すると同時に、物質の化学的性質を理解する。

学修到達目標

1. 化学変化を化学反応式で記述できる。
2. 物質量の概念を理解し、化学計算ができる。
3. 化学結合の種類を列挙し、その相違点について説明できる。
4. 酸・塩基の定義について説明できる。
5. 化学平衡の状態について記述できる。
6. 基本的な有機化合物を列挙し、その構造と性質の特徴について説明できる。

授 業 計 画

- 第1回 化学の歴史と化学を学修する意義
第2回 物質の構成粒子(原子, 電子配置, 元素の周期表)
第3回 化学結合(イオン結合, 共有結合, 金属結合)
第4回 化学反応と化学量論(化学式, 化学反応式)
第5回 化学反応と物質量(原子量, 分子量, 式量)
第6回 酸と塩基
第7回 化学平衡
第8回 有機化合物

評価方法

定期試験(筆記試験)の結果(90%)および講義の受講態度(10%)により総合的に評価する。

教科書

コ・メディカル化学(改訂版)－医療・看護系のための基礎化学－ (裳華房)

参考図書・文献

スミス基礎化学 (東京化学同人)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

専門教科を学ぶ上で基礎となる化学の基本事項を身につけることを目標として講義に臨むこと。
予習：各授業における教科書の関連箇所を事前に通読する。復習：授業で扱った練習問題を再度解く。

科目名	生物学						
担当講師	松政 正俊						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態							

授業概要

医学・理学療法学・作業療法学の基礎や臨床を深く学ぶためには、生物学の知識や考え方を身につけることが要求されます。本科目では、初学者に必要な知識を習得しつつ、さまざまな生物学的現象の関連や共通性、あるいは多様性を認識し、生命現象への理解を深めます。

学修到達目標

1. 生命の特質を列挙できる
2. 生物としてのヒトの特徴を列挙できる
3. 骨の肉眼的および顕微鏡的なたつくりを説明し、骨の役割を列挙できる
4. 筋の肉眼的および顕微鏡的なたつくりを説明し、骨の役割を列挙できる
5. 四大栄養素の代謝を概説できる
6. 遺伝情報の伝達のしくみとメンデル遺伝を説明できる
7. ホルモンと自律神経系による恒常性維持のしくみを例をあげて説明できる

授 業 計 画

- 第1回** 生命とは？／生物としてのヒトの特徴
第2回 ヒトを含む動物の身体：発生と細胞・組織・器官
第3回 骨のつくりと役割
第4回 筋のつくりと役割
第5回 栄養と代謝：エネルギーと物質の流れ
第6回 遺伝情報の伝達と発現
第7回 恒常性維持のしくみ：ホルモンと自律神経系
第8回 環境とヒト

評価方法

知識、理解度、問題解決能力を主に定期試験（70％）で、態度、解析力、論理性等を主にレスポンスカード（30％）によって評価する。

教科書

「ワークブック ヒトの生物学」八杉貞雄 著 裳華房。適宜プリント等も教材として配布。

参考図書・文献

「ヒトを理解するための生物学」 八杉貞雄 著 裳華房

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

初回は生命の特徴とは何か考えてくること。復習は各回1時間程度、予習は2回目以降30分程度は必要。講義では質疑応答を多く取り入れます。ノートテイキングは必須。

科目名	情報処理						
担当講師	西城 学						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

リハビリテーション専門職に必要なICTの知識や技能を学ぶ科目です。臨床では、電子カルテの利用、文献の検索、学会での発表などICTの活用は必須です。情報の収集、整理、管理、発信などの基礎知識とそこに潜むリスクについて学んでいきます。

学修到達目標

1. 情報リテラシーの重要性を説明することができる。
2. 情報収集、整理、管理の方法について説明できる。
3. Word、Excel、PowerPoint、Zoomが使用できる。

授 業 計 画

- | | |
|-----|----------------------|
| 第1回 | ICTに関する基礎知識（活用とリスク） |
| 第2回 | パソコンの基礎知識と操作方法 |
| 第3回 | 情報収集と情報管理（検索方法と管理方法） |
| 第4回 | メールの基礎 |
| 第5回 | Wordの基礎 |
| 第6回 | Excelの基礎 |
| 第7回 | PowerPointの基礎 |
| 第8回 | Zoomの使い方 |

評価方法

レポート課題（100％）

教科書

なし（配布資料あり）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とも30分以上の学習。
講義や実習につながる内容が多く含まれていますので理解を深めるように。

科目名	保健体育						
担当講師	作山 正美 梶山 健						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	3	時間数	60	開講時期	前後期
授業形態	講義 実技						

授業概要

保健体育の授業は、実技と理論に分かれる。理論では、運動・スポーツが持つ意義と役割、エネルギー供給機構、トレーニングの基礎理論、メタボリックシンドローム、安全で効果的な運動の仕方、その他について学び、運動処方作成へと結びつけていく。

学修到達目標

講義では、○健康と運動・スポーツの関りを理解する。○安全で効果的な運動・スポーツの実践方法を理解する。○運動・スポーツと肥満やメタボリックシンドロームとの関りについて理解する。○健康づくりの運動処方を作成できる、ことなどを目指す。

授 業 計 画

(保健体育学 実技)

第1回	実技は以下の内容をローテーションで行う	梶山健
第2回	①バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	梶山健
第3回		梶山健
第4回		梶山健
第5回		梶山健
第6回		梶山健
第7回		梶山健
第8回		梶山健
第9回		梶山健
第10回		梶山健
第11回		梶山健
第12回		梶山健
第13回		梶山健
第14回		梶山健
第15回		梶山健
第16回		梶山健
第17回		梶山健
第18回		梶山健
第19回		梶山健
第20回		梶山健
第21回		梶山健
第22回		梶山健
第23回		梶山健

(保健体育学 理論)

第1回	運動・スポーツの意義および健康との関連性	作山正美
-----	----------------------	------

第2回	運動・スポーツとエネルギー供給機構および骨格筋	作山正美
第3回	運動・スポーツと酸素摂取および血液循環	作山正美
第4回	運動・スポーツと体力およびトレーニング	作山正美
第5回	運動・スポーツと疲労および休養	作山正美
第6回	運動・スポーツと肥満およびメタボリックシンドローム	作山正美
第7回	安全で効果的な健康・体力づくりおよび運動処方作成演習	作山正美
第8回	運動・スポーツをめぐる諸問題（スポーツ外傷&障害、ドーピング、他）	作山正美

評価方法

筆記試験とレポートおよび実技への取り組み度で評価する

教科書

授業時にプリントを配布する

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

安全で効果的な授業を展開するために真摯な態度で取り組む。健康と運動・スポーツに関する報道や文献に触れるようにする。

科目名	英語						
担当講師	ワン ファイリン						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

This course aims to help first-year students get used to English for medical situations using intermediate-level medical English found in the course textbook. The course will be conducted mostly in English, and the project report and written examination will also be in English only.

学修到達目標

- 1) Students would have learned and be able to remember many medical English words, phrases and sentences often used in medical situations in Japan.
- 2) Students would have read about different medical scenes and events that usually happen in a Japanese hospital setting and be able to understand the English conversations and phrases required in these situations.
- 3) Students would be able to apply these information learned into a group work project and be able to answer questions regarding these information in a written test.

授 業 計 画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Course introduction, Self-introduction exercise, Coffee Break 1, Essay 1. |
| 第2回 | Unit 1: Meeting Patients |
| 第3回 | Unit 2: Taking a Medical History |
| 第4回 | Unit 3: Assessing Patients' Symptoms |
| 第5回 | Unit 4: Taking Vital Signs |
| 第6回 | Coffee Break 2, Essay 2, Body Parts: External, Body Parts: Internal |
| 第7回 | Unit 5: Taking a Specimen |
| 第8回 | Unit 6: Conducting Medical Examinations |
| 第9回 | Coffee Break 3, Essay 3, Project details and preparation, confirmation of group members. |
| 第10回 | Unit 7: Assessing Pain |
| 第11回 | Unit 8: Advising about Medication |
| 第12回 | Unit 9: Improving Patients' Mobility |
| 第13回 | Unit 10: Maintaining a Good Diet |
| 第14回 | Unit 11: Caring for Inpatients (Deadline for project submission) |
| 第15回 | Unit 12: Coping with Emergencies |

評価方法

- (1) プロジェクト (50%) (2) 期末試験 (記述・選択) (50%)

教科書

Caring for People (Authors: Michiko Mayuzumi, Tamiko Miyatsu & Philip Hinder)
(Publisher: Cengage Learning)

参考図書・文献

取り上げるテーマに関連する図書・文献については、必要であれば都度紹介をします。

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

Students should refer to the lecture plan above closely, revise the course textbook before and after every class, and listen to the downloadable audio in their own time where possible. Students should work with their coursemates, check their own understanding of the English lessons and ask questions whenever necessary.